

図1 2020-2025年の明るい星の星食期間（太線）

(経路上の目盛りは1分ごと JST)

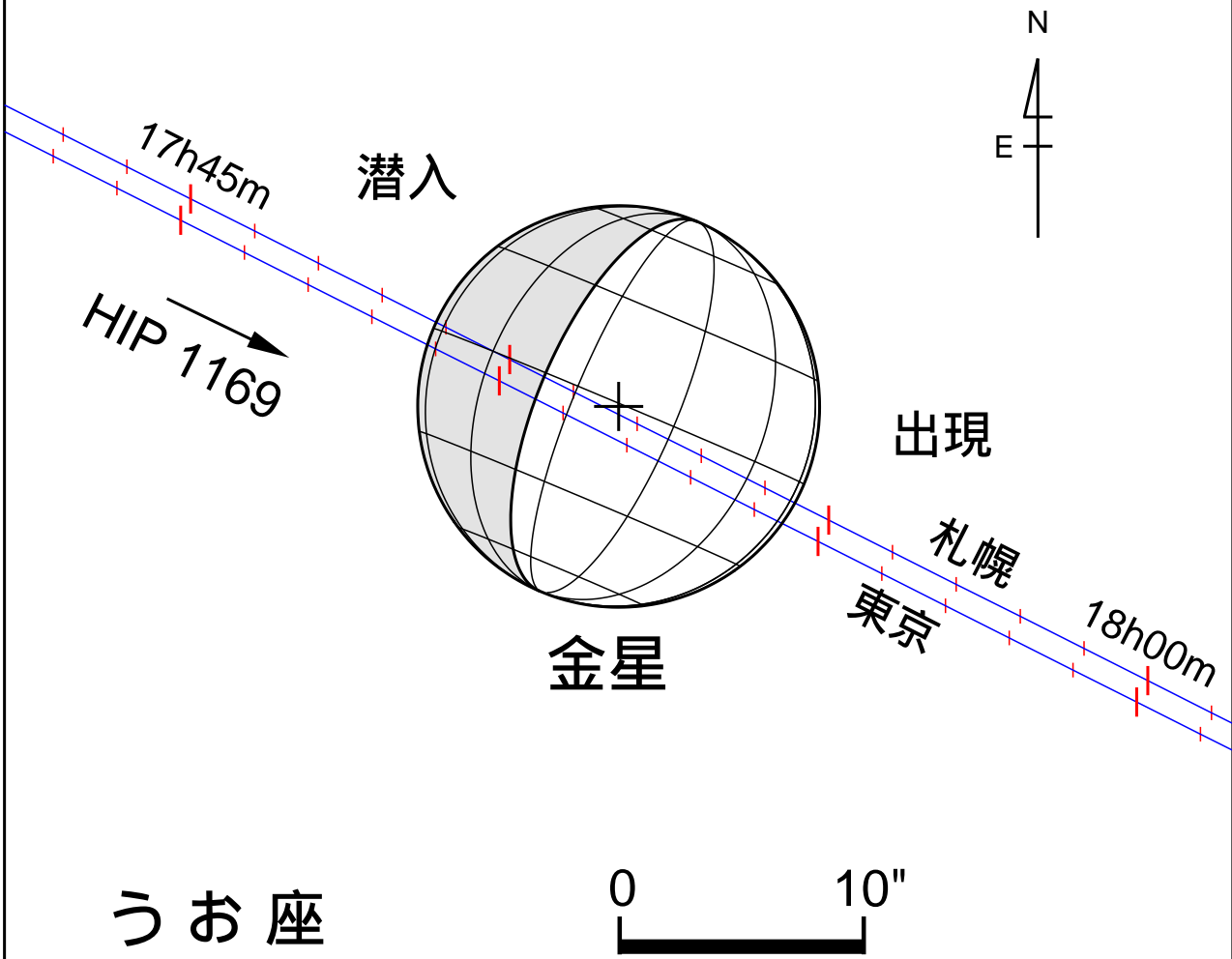
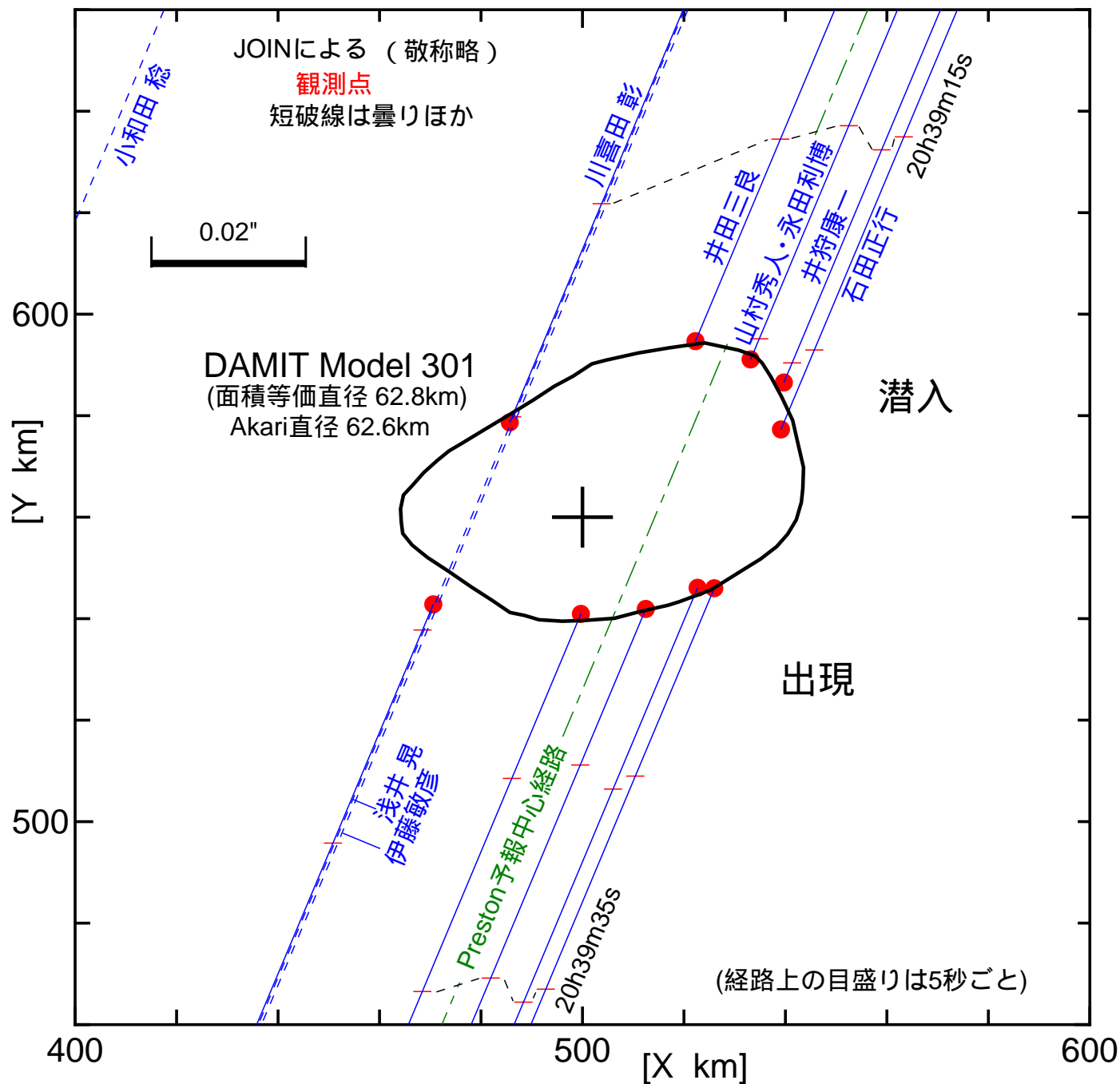


図2 2020年2月11日(火)夕刻 金星による6.9等星の掩蔽

図3 (925) Alphonsina (2019年8月11日) の食 観測結果 (時刻はJ.S.T)



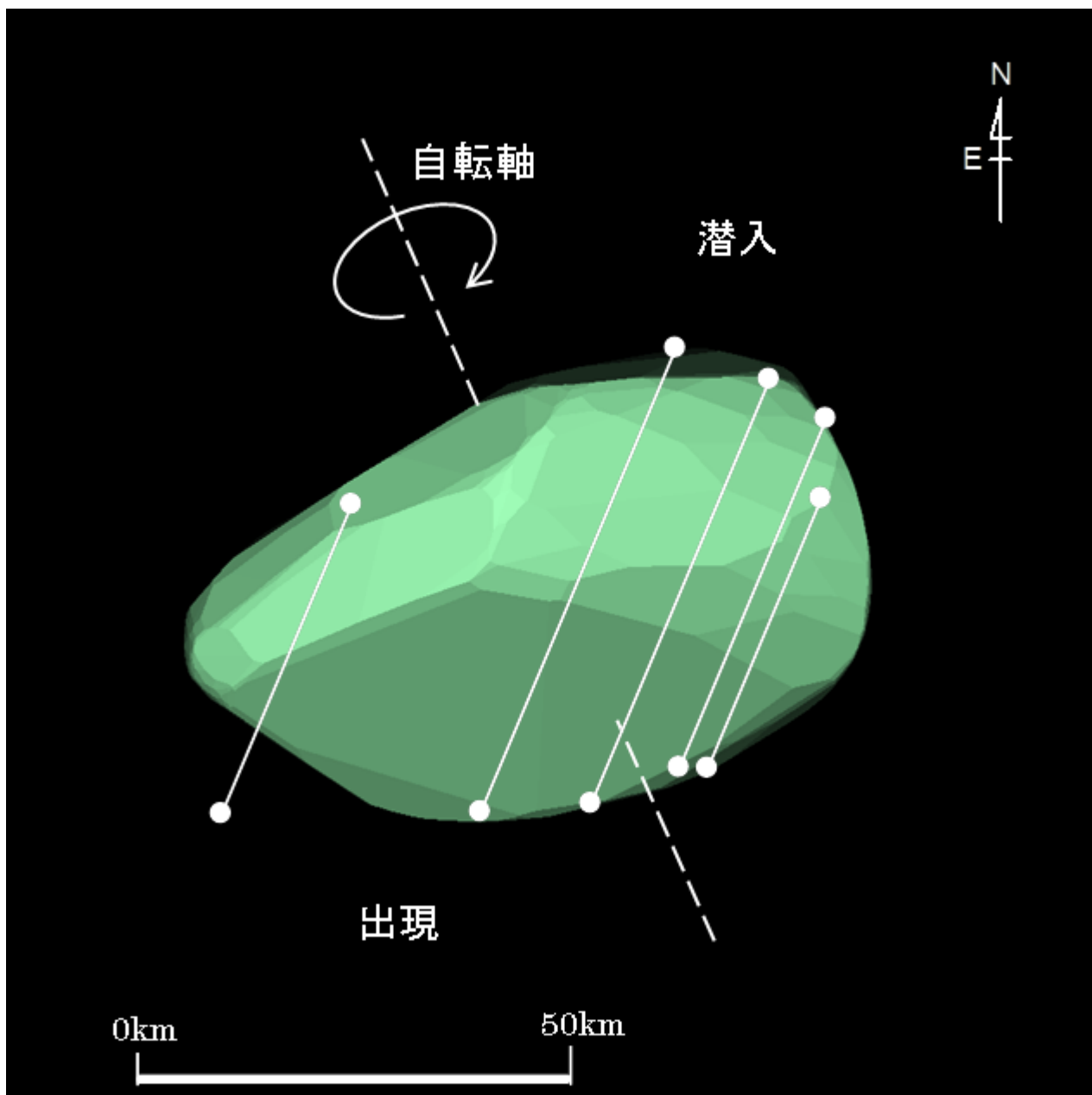


図4 (925) Alphonsina 2019年8月11日 11h39m20s UT DAMIT Model 301 ($\lambda = 294^\circ$ 、 $\beta = 41^\circ$)
 $P = 23^\circ$ 、 $\beta_e = -36^\circ$ 、 $\lambda_e = 151^\circ$ 、Scale Factor 1: 1、 $k = 0.981$ 、 $B = 263.7^\circ$

λ と β はこのモデルの自転軸方位の黄経・黄緯(J2000)、 P は自転軸の位置角(当夜の値、以下同)、 β_e 、 λ_e は地球を天頂に見る小惑星上の緯度・経度(西経を正)、ScaleFactor は整約図のスケールを基準にしたモデルの大きさの適合倍率比(校正値)、 k と B はそれぞれ小惑星の輝面比と明縁方向角の意味。

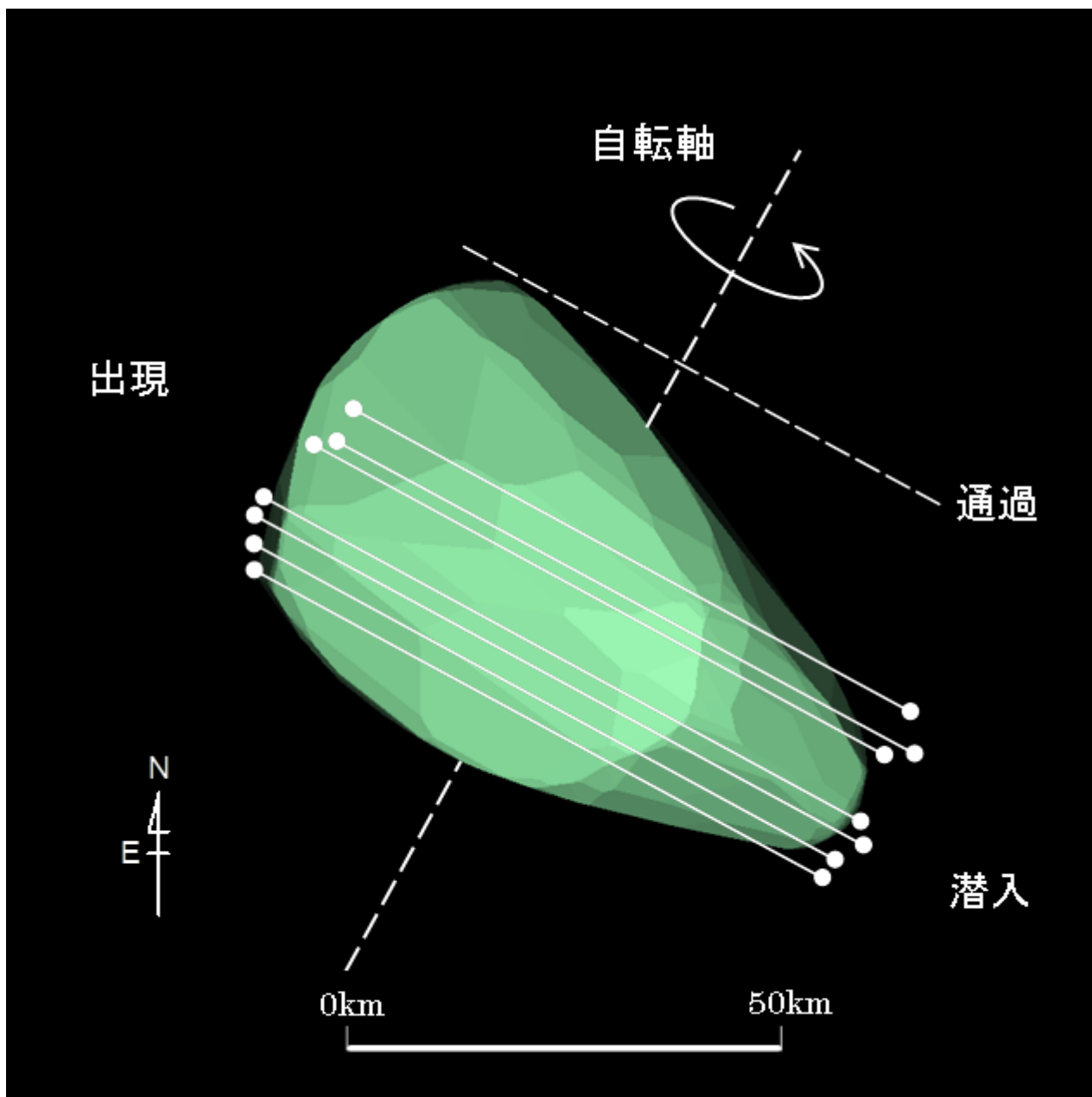


図5 (925) Alphonsina 2003年12月15日 15h59m12s UT DAMIT Model 301 ($\lambda=294$ 、 $\beta=41$)
 $P=330^\circ$ 、 $\beta_e=21^\circ$ 、 $\lambda_e=-66^\circ$ 、Scale Factor 1:1、 $k=0.995$ 、 $B=351^\circ$

λ と β はこのモデルの自転軸方位の黄経・黄緯(J2000)、 P は自転軸の位置角(当夜の値、以下同)、 β_e 、 λ_e は地球を天頂に見る小惑星上の緯度・経度(西経を正)、ScaleFactorは整約図のスケールを基準にしたモデルの大きさの適合倍率比(校正値)、 k と B はそれぞれ小惑星の輝面比と明縁方向角の意味。

図6 (147) Protogeneia (2019年8月25日) の食 観測結果 (時刻はJ.S.T)

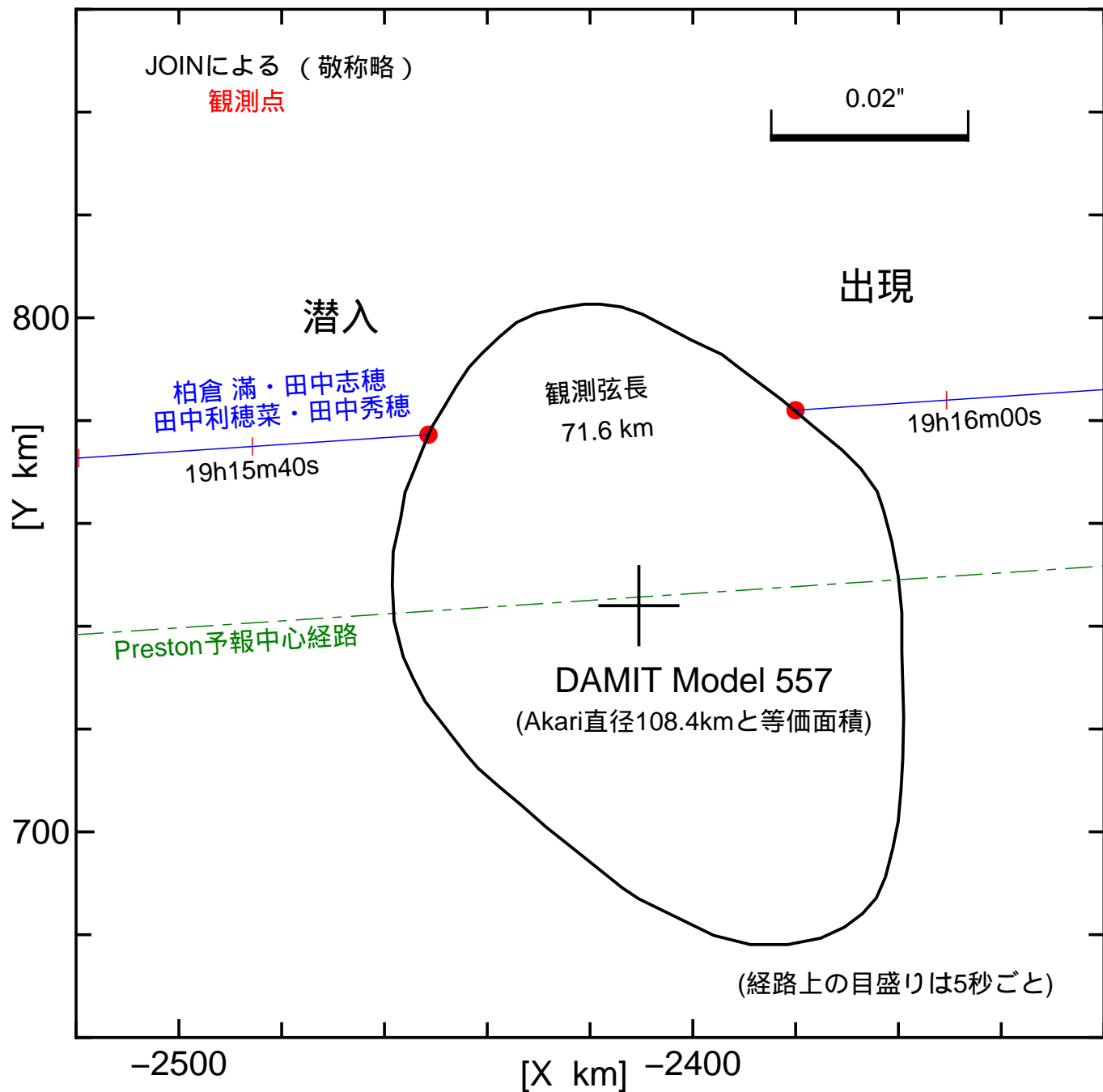
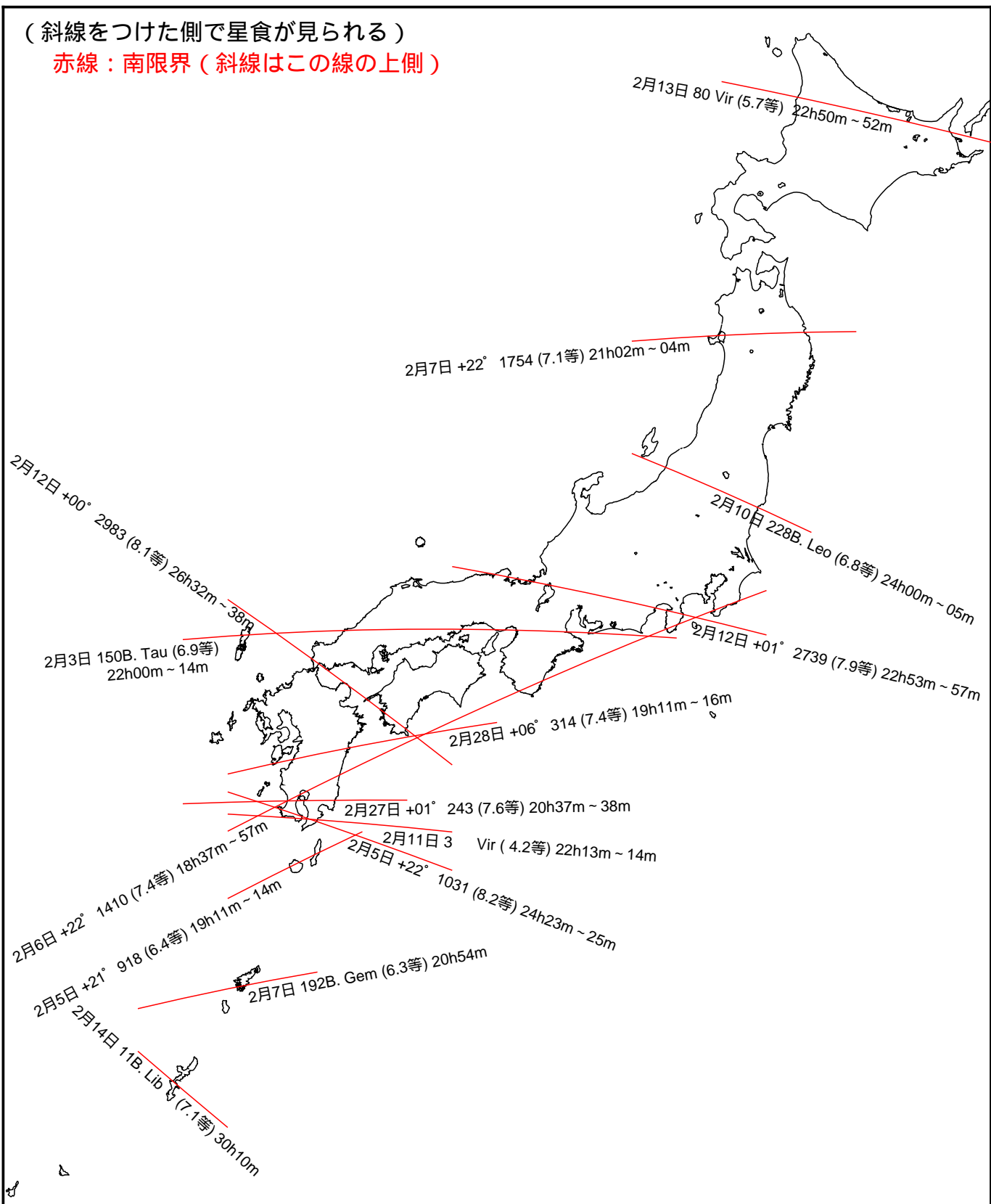


図7 2020年2月 日本を通る主な星食限界線

(斜線をつけた側で星食が見られる)

赤線：南限界 (斜線はこの線の上側)



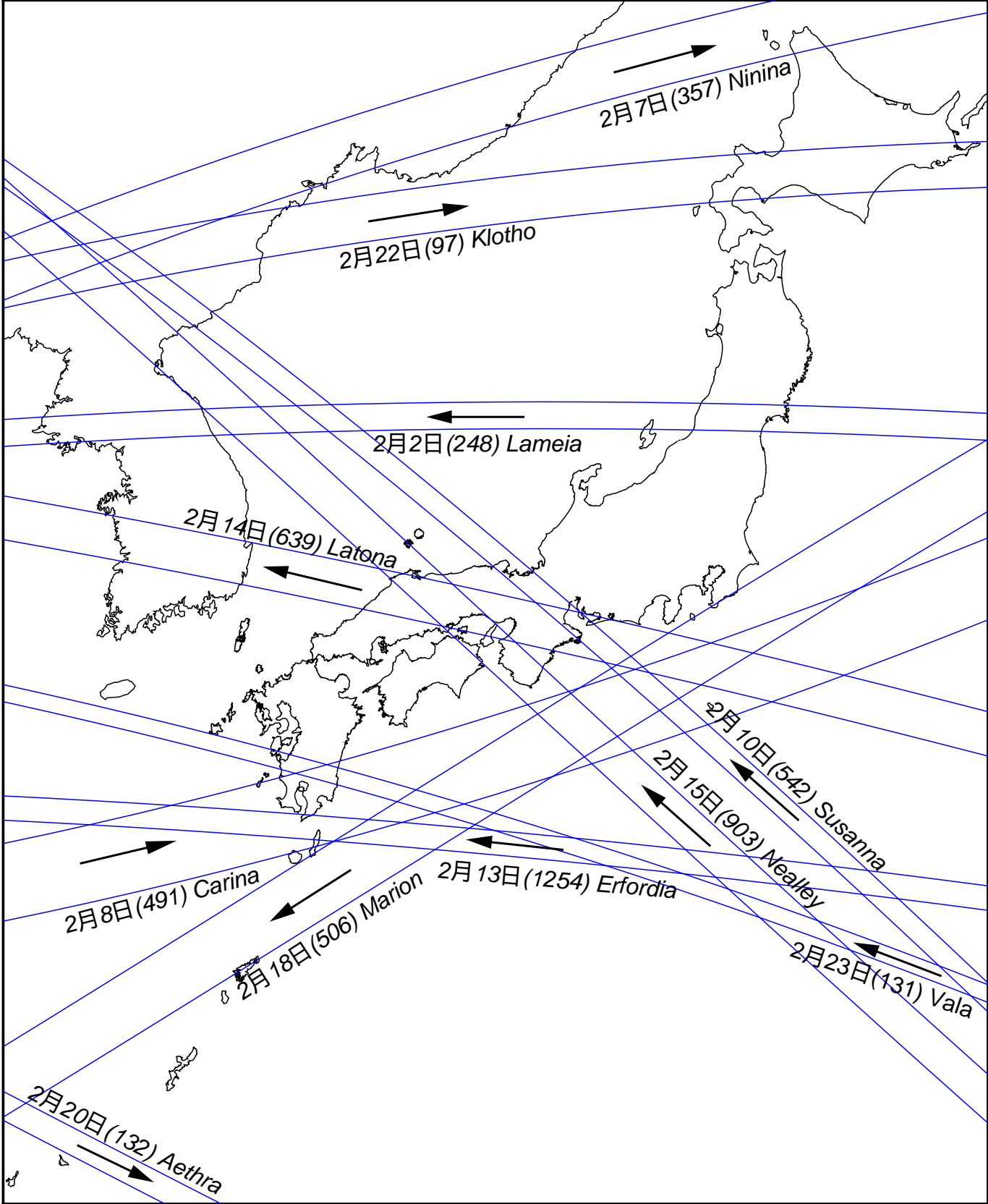


図8 小惑星による主な掩蔽帯経路 (S.Preston初期予報) 2020年 2月
 矢印は影の移動方向を示す